

「地元飲食店に野菜供給を目指して」



松本 佳樹 (21 歳)
(西条市)

新規学卒

1 就農の動機・理由

家が農家で子供の頃より農業の手伝いをしてきた。そこから農業に興味を持ち、自分から農業大学校に行くことを希望した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (年)	現在の経営 (2019 年)	将来の経営 (2023 年)
労働力		男 1 人(本人)	男 1 人(本人)
経営耕地		水田 57 a 畑 0 a 樹園地 0 a 計 57 a <small>(自作地、借地合わせた面積)</small>	水田 87 a 畑 0 a 樹園地 0 a 計 0 a <small>(自作地、借地合わせた面積)</small>
経営内容		夏秋きゅうり 35a 冬春きゅうり 2 a 里芋 20 a ブロッコリー 10 a 白菜 10 a	夏秋きゅうり 15a 冬春きゅうり 2 a 里芋 30 a ブロッコリー 20 a 白菜 20 a

○農業用施設

ビニールハウスは 1 棟 172 m²

農業用倉庫 1 棟

○主要農業機械

トラクター 1 台

軽トラック 1 台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県西条市

平成 28 年 3 月 高校卒業

平成 30 年 3 月 農業大学校卒業

就農 平成 30 年 9 月

(2) 就農時の思い

自分の時間帯で農業に取り組むことができることや農業に関する研修、地元での各行事に参加することができるため、地域の人とのつながりができること。

農産物の売り先が確保できるかが当初からの心配事であった。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

J A 里芋部会に加入し、栽培技術を学んでいます。青年農業者協議会や県、市主催の勉強会にも参加しています。

(2) 資金の準備

農業次世代人材投資資金（準備型）
（経営開始型）を活用しています。

(3) 農地・住宅の確保

農地は父親や祖父及び近隣の農家から譲り受け利用権設定しています。

住宅は、現在両親とともに生活しています。

(4) その他苦労したこと

直売所や近隣の飲食店に野菜を出荷、提供していますが、新しい販路（市外）の拡大に苦労しています。

5 農業経営の特徴

農業大学校で学んだキュウリを中心に栽培し、地域の直売所や飲食店等に出荷しています。

6 これからの夢

父親の経営（イチゴ、水稻、七草）を引き継げるように頑張りたい。

また、JA出荷とともに、飲食店への材料提供ができるようにいろんな品目にも挑戦していきたい。

7 成功したキーポイント

自分一人ではできないことも青年農業者の仲間と一緒に「自分たちの農産物」を販売できる仕組みづくりを検討することで、自分の販路拡大ができれば成功へのきっかけになると思います。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は、天候に左右されることや雑草との戦いで、それをうまく調整できれば、良いものが出来ると思います。

また、青年農業者の先輩方からいろんな知識、経験を聞ける機会が増え、ま

すます農業に関心を持つようになりました。

農業は、たいへんな時期もありますが自分の努力次第でおいしい野菜を作ることができるので、楽しいです。ともに頑張りましょう。

○ 指導機関からのひとこと

青年農業者組織の行事に積極的に参加しており、小学生からも人気があります。

今後は青年農業者組織の役員等も引き受け、地域農業のリーダーとして活躍することを期待しています。

執筆機関

東予地方局産業振興課

電話番号 0898-68-7322



ブロッコリー畑にて